

令和4年度第2回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

令和4年8月23日（火） 午前9時30分～

2 開催場所

千葉中央コミュニティセンター 10階 101会議室

3 出席者

（委員）神野委員長、椎原委員、関委員、瀬崎委員、高梨委員、桜井委員、谷委員
（事務局）神田生活文化スポーツ部長、小名木文化振興課長、川口文化振興課長補佐、
松田文化振興班主査、安藤主任主事、鈴木主任主事

4 議題

- （1）委員長・副委員長の選任
- （2）市民意識調査内容報告
- （3）有識者調査対象者の選定について
- （4）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について
（令和3年度実施状況、令和4年度実施予定）
- （5）芸術祭基本構想について

5 議事の概要

- （1）委員長・副委員長の選任
互選により、委員長・副委員長の選任が行われた。
- （2）市民意識調査内容報告について
市民意識調査の内容について報告を行った。
- （3）有識者調査対象者の選定について
有識者調査対象者の選定について意見交換を行った。
- （4）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について
年次報告書について、意見交換を行った。
- （5）芸術祭基本構想について（議事要旨）
芸術祭基本構想について、事務局から有識者からの意見、概要案の説明を行った。
委員からは以下のような意見があった。
○他の市町村で実施している芸術祭についての現状や意見が挙げられた。
○芸術祭ではまちの空洞化の解消など、都市の問題を解決していくことも見込まれるため、千葉市の課題をヒントに取り組んだらいかがか。
○レッドブルエアレースの開催があったことなどから、千葉はさまざまなハードルを越え、面白いことができる場所というメッセージが発信できる可能性がある。
○海岸の可能性が見出されつつあるため、海は千葉市にとって重要なポイントになるのではないか。

○文化施策と経済振興が連携し、相乗効果が出てくると、まちは面白い場所になると
思われる。芸術祭がそのような場所になってほしいと思う。

(以下 公開部分議事録)

【仮議長 部長】

ご承認いただきましたので、仮議長として、会議の進行を務めさせていただきます。
まず、議題1の「委員長・副委員長の選任」の前に、最初の会議でございますので、本会の概要
について、事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【仮議長 部長】

概要につきましては、今のご説明のとおりでございます。それでは、議題に入らせていただき
ます。議題1の委員長及び副委員長の選任を行いたいと思います。

「千葉市文化芸術振興会議設置条例 第4条第2項」に基づき、互選により選任したいと思いま
すが、どなたか立候補、または推薦される方はいらっしゃいますか。

【椎原委員】

委員長は神野委員に、副委員長は本日ご不在ですが、種谷委員にお願いしたいのですが、いか
がでしょうか。

【仮議長 部長】

ただいま、椎原委員から、神野委員を委員長に、種谷委員を副委員長に、とのご推薦をいただ
きましたが、いかがでしょうか。

では、神野委員を委員長に、また、種谷委員を副委員長に決定したいと存じます。

恐縮ではございますが、ご挨拶を頂戴したいと存じます。

神野委員長、よろしくお願いいたします。

【神野委員長】

ただいま、椎原委員からご推薦いただいて、皆さんにご承認いただいた神野でございます。

今年は市民委員の桜井委員、谷委員が引き続きということで顔ぶれが変わらないということでも
あり、私の記憶では前回の委員の皆様活発なご意見、議論は毎回時間が押し押しになってしま
い事務局には大変ご心配をおかけし、委員の皆様にはご迷惑をおかけしているかと思いますが、
非常に充実した会議になっていたと思います。

引き続き皆さんのお力添えをいただきながら、この会議を実のあるものにしていきたいと思
います。よろしくお願いいたします。

【仮議長 部長】

ありがとうございました。仮議長を務めさせていただきましたが、委員長が選出されましたの
で、ここで、神野委員長と交代したいと存じます。議事進行につきましては神野委員長にお願
いいたします。

【神野委員長】

それでは議事進行を私のほうで進めさせていただきたいと思います。次第に沿って進めさせていただき、まず議題2の「市民意識調査内容報告」に進みたいと思います。これについてまず、事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

ありがとうございます。アンケートを取って状況を把握することで、施策の推進をしていくのかと思いますけれども、今の事務局の説明で気になるところ、質問、ご意見等ありましたらお願いしたいと思います。

では私のほうから。団体向けの意識調査のところ、市内文化芸術団体20団体。対象団体を千葉市で選出と書いてありますが、選出の基準はあるのでしょうか。

【事務局】

前回の調査でも20団体選定させていただいておりますので、それをベースに検討させていただく形になるよう考えております。

【神野委員長】

旧来の文化団体には行政は割と手厚くしているイメージがありますが、文化芸術団体には変化があって、団体の活動の内容が時代の変化とともに変わったことや、高齢化など両方絡んだ変化があります。今は、新しく行政と結びついて活動する団体とは異なる団体もありえるような気がします。

今、関委員の三条会の本拠が千葉市ではなくなりましたが、例えば劇団があった場合にもそれを団体とみなせる可能性もあるということもありますので、その対象についても考えてほしいかなと思いました。これはほかの委員の方にもご意見いただきたいと思います。

【谷 委員】

前回の対象団体はどのような選ばれたのか伺いたいです。芸術のグループなのか、施設なのか。私が住んでいる町内会では、手作りでイベントを行う文化祭を企画しておりまして、そのようなレベルの団体も対象に入れるのかなど。

【神野委員長】

これは文化連盟に所属している団体中心ということですかね。

【関 委員】

団体というと例えば演劇は集団創作するので、そこだけで団体ですが、ほかの場合は連盟、例えば短歌連盟や、個人で活動している人たちが運営している団体と、演劇でも劇作家協会や演出者協会など、アーティストの集まる団体と芸術家だけの団体というのは、違う種類のものだと思います。

今回の団体というのは、いわゆる個人活動している人たちが協会に属する形の団体という感覚でしょうか。

個人で活動する人、集団で活動する人がいるので、僕のように集団で活動する人たちは、ダンスと演劇ぐらいかなと思うのですが、市が想定している団体とは違うのかもしれない。

【神野委員長】

これは難しい問題で、今の関委員のご意見を別の角度から説明すると、文化連盟に所属して、その創作者の意見が集約されるというレトリックが成り立つと思いますが、その所属している人たち自体が今の時代の中でかなり様変わりしていると思います。

今回のこのアンケートは割と未来志向な内容だと思います。そうするとアンケートの意図について団体を通して聞くことが現実的にはできないかもしれないという懸念があります。

個人の集まりとして代表的な意見として吸い上げるという意味では、団体は重要だと思いますが、団体そのものが私たちの知りたい人たちの意見を代表する団体になっているか。今の時代とても難しい端境期というか転換期でもあるかだと思います。

【椎原委員】

団体向けアンケートとして、活動内容を具体的に記入してもらう際に、様々な団体が想定されますが、答えてくれる団体をまんべんなく選出せざるを得ないと思います。

その中で、若年層から高齢者まで幅広いところもあれば、高齢者ばかりのところもあるだろうと思います。

設問から見ていくと、絵画写真などの美術がありますが、つい先日私の中学校の恩師が県立美術館で合同展を開催していましたが、やはりかなり高齢化甚だしいというところがあり、選ぶ際に年齢層を把握しながらまんべんなく選出するなどの配慮をすると良いと思います。

【神野委員長】

今の話は、音楽は裾幅が広くて、上から下まで一つの団体で意見を聞くことができる可能性があるけれども、今注目されている現代アート系の人たちというのは、まず団体に入らないので声を聴くことができないということがあります。

そうすると未来のという意見をどこで聞くのかというのが、なかなか難しいかもしれないですよ。市民としてはさまざまな意見を聞くことができると思いますが、そこがなかなか難しい。

では、どうやって把握するのかという話ですが、これは例えば美術館の協力を受けたりして、市内在住や市出身の人たちに任意で聞き取りをする方が効果的なものかもしれないですね。そこを補完する仕組みということもありなのではないかと思います。

【事務局】

団体というくくりではなく、活動をしているアーティストという絞りのほうが正しいという認識でよろしいでしょうか。団体での集団としての表現活動もあるけれども、さまざまな表現活動をしている人に対して、それぞれのアーティスト活動への問いかけという形にすれば良いでしょうか。団体へのという縛りがちょっと狭めてしまっているというということですね。

【神野委員長】

そうですね。ただ、団体が、例えば茶道とか生け花とか、組織を作って活動を継続していくのも、当然意味のあることだとは思いますが。

今はそれだけではなく、新しい表現をしている人達をどう活性化させていくのか、サポートしていくのかということにも軸足を置こうとしていると思うので、団体だけでは足りないということかなと思います。団体を見捨てるというわけではないですが、相対的には団体影響力というのは、美術館の展覧会でいえば、昔、新聞に70年代までは公募団体の展覧会の予定で表になっていたものが、それ以降80年代に入れば美術館が企画した企画展が載るという形に変わってきました。そのようなことも考えないとニーズは拾えないと思います。

【谷 委員】

色々な団体があって、それぞれの団体の目的や実施内容はある程度明確なのだろうと思います。そこを吸い上げるだけではなく、この資料でも、芸術祭の話にしても、多様性や社会包摂などのキーワードがいろいろ出てきていると思います。そこがもしかして、基本理念というか千葉市の大きな骨組みになるとすれば、色々な角度の人たちの話を聞けるといいと思います。そこから、多様性をすくい取るというようなプロセスになるといいと思います。

【椎原委員】

20という数は適正かどうか気になっています。例えば今10想定されているのがあるとすると、いろんな多様な表現が千葉市で行われていて、20団体、各ジャンルから2団体ずつ選出して。そんなところで正しいのかという。20団体のアンケートで、何が分かるのだろうと思います。

団体というよりは実際にアーティストとして活動している方になると、対象が結構広くなりますよね。メディアまでいうとユーチューバーも含まれますし。どのくらいまで広げるかっていうと、かなり大変だと思います。でもそれをやらないと、旧態依然で終わってしまうので、せっかくお金かけてやるなら、選定するのは大変だとは思いますが、若年層から声をすくいあげるようなことを考えていただけたらなと思います。

【事務局】

そもそも、団体という表現が良くないのかもしれないです。どのような対象で何人、何件調査するかというのを考えださなければいけないのですが、質問の内容も分かりづらいところもあると思うので、どのような対象に何件できるか考え直してご意見をいただき直したいと思います。

【神野委員長】

今回のアンケート結果を重要視していて、僕は団体の活動の報告を受けて、補助金の審査というところからこの会議には長く関わっていますが、そのころからとても変化してきているので、根拠となるアンケートというのは結構重要だと思っています。

ほかのアンケートは法律や国の施策の変化を踏まえて理解されていて、どのようなイメージなのかを拾おうとしているのはよく分かるので、団体のところはもう少し時代に合ったやり方を考えたほうがいいと思います。

決して、団体を無視しろという話ではなく、ずっと続けている団体の方と新しい表現をやっている方の意識の違いが明らかになれば、そこから千葉市が何を大事にするのかということが問われてくると思いますので、そのあたりは大切かなと思います。

【高梨委員】

神野委員長からもお話がありましたが、年代として音楽は幅広いということですが、美術のほうは高齢化が進んでいるということで、20団体という数はどうかというお話もありましたけれども、市内に県と市の美術館があります。その美術館でのご利用者は、団体や個人、色々な方がご利用されていると思います。また市内に民間のギャラリーがあり、そのようなところからも拾えるかなと思っています。

調査数を決めるときは、全体数とのバランスと利用者意見もありますので、双方のいろんな意見を吸い上げる形でアンケートが有効な活用になるようになるといいと思います。

【関 委員】

いわゆる協会のような団体ではなく、個人で行政と関わってみたいという人を探すのであれば、せっかく芸術文化新人賞などがあるので、賞を取った人だけではなく、今まで応募してきた人たちというのは、行政と関わりたいと思っている人たちでしょうから、そのあたりを活用されると良いと思います。

【神野委員長】

例えば千葉市美術館はあまり地元ということを前面に出していないと思います。これは考え方が色々あると思いますが、千葉市が施策として若手の地元ゆかりのある作家をサポートしているというのを押し出すのであれば、美術館の活動も、千葉市出身とか千葉市在住などの表現者のリサーチをするようにしてもらおうということも結構大事だったりすると思います。その積み上げの中でこの人達に聞くということが、見えてくるかもしれません。

【瀬崎委員】

音楽の場合では、千葉市にあるホールで企画されているのは美浜しかない。しかもそこも委託なので、やはり特殊なパターンだと思います。実際に舞台上がる人とは違う方々にこのアンケートを送付しても相手先が困ってしまうというか、表現者や専門家の意見は全然すくえない状態にあるように思えます。

そのような意味では、意図していたものとか離れてしまうことを危惧しています。美術のほうももしかしたら学芸員に調査するなどで接点があるのかもしれないので、そこはもう一回検討していただいたほうがいいかなと思います。

【神野委員長】

今の瀬崎委員のお話が、最初の関委員のお話とつながると思いますが、芸術文化に関わる立場が、今までは制作をする人とか演奏する人達の声を拾うという形だったと思いますが、これからは、プロデュースする人、キュレーションをする人、個人活動する人など、そのような文化芸術に関わる多様な人たちからも拾う形にすると良いと思います。

この部分は大きく意見を申し上げてしまったので、せっかく調査する貴重な機会なのでアンケートの内容をもう一度検討していただけたらと思います。市民向けや若年層向けなど、他のアンケートに関してはいかがでしょうか。

【桜井委員】

若者向け意識調査について、中学・高校・大学各校が2校ずつということで内容は決まっておりますが、その設定方法を伺いたいのと、せっかくこうしたテーマを基にアンケートを行うので、できれば文化芸術に関心のある学校の美術の先生や、ご自身が団体に所属していたり、アーティスト活動されている先生、美術のクラブの顧問のような方が中心になってこのアンケートを無駄にすることなく、生徒みんなで考える授業のような形としてアンケートを配布し、中学、高校、大学生の意見をそのまま吸い上げる。そのような機会にしていただけたらいいと思います。

市民のほうは郵送、または WEB 回答ということですが、若者向けは学校に一任されているような印象がありますので、そうすると学校から選抜された各100人くらいになってしまうと思いますが、ごく一部の生徒が答える権利というか立場になっているようにも見受けられますので、家に持ち帰り各自で書いてというのはやはり悲しいことなので、授業レベルであったり、各部活で考えて意見をまとめて吸い上げるというような、せっかくの機会を生かしていただきたいなと思いました。

【神野委員長】

児童生徒の対象の学校の規模であるとか、やり方についてのことかなと思います。これについて何か事務局のほうから説明することがあれば。

【事務局】

若者向けの調査につきましては、中学校、高校につきましては教育委員会経由で、学校単位でお願いしようと思っ

ておられるところまで、授業として扱えるかは、難しいところでございます。大学につきましては、市と大学の連携がありまして、市内の連携先10校程度に依頼しようと考えております。併せて、面識のある先生などに協力を依頼して、回答率を上げる努力はしたいと思

【谷 委員】

社会意識調査というものは、ターゲットの方たちの答えを知りたいということもありますが、調査を受ける側として、投げかけられたものに自分は

どう答えるかを考えるプロセスが結構大事で、それが気付きになるなど、それぞれの人達の気持ちを高める効果があると思います。特に学校の話は事務局からもあったように、学校を通じて実施するなら一言添えて、「市はこういうことをやろうとしている」ということを説明する文言があるだけで貴重な対話の機会になると

【神野委員長】

思いますので、そのような活かし方というの

【椎原委員】

も検討していただければと思います。学校の数の問題は、学校には色々な調査が来て結構大変だと思うので、千葉市の全校調査という

ことは難しいことは事実としてあるけれども、実態もきちんと把握したいということもあるので、それぞれ2校でよいのか、誰が窓口になるのかということ

は、実効性のある内容にするために大切であり、窓口でしっかりどのような形で児童生徒達に聞いていくのか、頑張ってもらえる先生がいる学校を

【瀬崎委員】

考えていくのも重要なのかなと思いました。大学だけWEB回答になっていますが、全部WEB回答でいいのではないかと

【神野委員長】

思います。そのほうが低コストだと思いますし、代わりに数を増やすなども考えられます。紙調査の方が、しっかり読んだり、意識は高まると思

【事務局】

これは既存ということで。前回調査の際に同じような設問を設けていたということでございます。（新）は今回新たに設けた設問となっております。

【神野委員長】

設問21はものすごく選択肢の数が多くて、そのなかで3つというのは成立していたと判断しているということですね。たしかにこの設問の選択肢を全て見て、優先順位をつけることは、僕でも困るかもしれないと思いました。以前のものとの比較という側面もあるので、既存ということであれば変えるのは難しいのかなと思います。

紙配布の関係で学校に頼むと、例えば全校生徒150人いるとしたら、150に近い数を回収してくれるという期待が大きいですが、WEBだと、どうなるか蓋を開けてみないとわからないというところがありますね。そのあたりはどちらを取るかというところがあるように思います。

千葉市は市民意識調査、僕も毎度登録していて、定期的に連絡が来ます。最近が多忙で回答していないですが、メールを通じて気楽に答えられることも重視しているのかなと思います。ただ、椎原委員のおっしゃることもごもっともかなと思います。WEBに関しては、ほかの市民向けと大学生以外には行う予定はないのでしょうか。

【事務局】

回答数が増えることは、こちらとしてもありがたいことです。一方で神野委員長がおっしゃっていたとおり、紙である程度の件数を回収したいという狙いもあるので、そのバランスを考えて検討したいと思います。

【神野委員長】

これは難しい問題で、WEBアンケートであれば、主体性のある方から回答していただける一方で、学校は文化芸術にあまり興味のない子供にも書いていただけるので、本来の全体の様子が変わるのではないかなという点もあります。どこを取るかですね。それはもう一度事務局のほうで検討してもらえたらと思います。

ちなみに前回のアンケートの結果を何か取り組みに活かしたり、なにか象徴的なことはありますでしょうか。

【事務局】

現計画の項目の後にアンケートが入っておりまして、アンケートは計画の根拠として活かしております。

【神野委員長】

このように整理されているということですね。1位になったものや特徴的なものを拾いながら、課題を抽出したということで、今回の調査でも検討されていますよね。

意識調査について、根本的なことも含めて意見が出ましたけれども、内容に関してはそれほど大きな問題は示されていないので、何を重視するかによって、対象や聞き方が変わってくると思うので、もう一回事務局のほうで検討していただけたらなと思います。

それでは次の議題に移りたいと思います。「有識者調査対象者の選定について」ということになりますが、資料2だつて事務局のほうからお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

今事務局のほうから説明していただいたとおり、社会包摂をテーマとして1名ないしは2名ですかね。あと「観光まちづくり等の各関連分野との連携」での有識者への聞き取り、ヒアリングを行いたいということですね。この1、2、3というのが優先順位でしょうか。

【事務局】

現状は単純な付番で、優先順位ではございません。

【神野委員長】

では3名出ていますけれども、みなさんからご意見をいただいて、それを参考にして事務局のほうで順位をつけたいのかなと思います。

【椎原委員】

最初に社会包摂ですが、ソーシャルアトラポに中村さんと長津さんという研究者がいらっしやいますが、方向性がちょっと違ってきます。中村さんは認知症などの高齢者のほうにシフトしているように見えますし、長津さんは障害とかLGBTの問題意識が高い方です。両者とも同じようなことをできるけれども、より専門的なところを選ぶのであればその点で選定したらいいと思います。

あと、観光まちづくり等ですが、千葉市と八戸を同じ都市レベルとして考えていいものなのかと思います。八戸はすごく活発で大きな町ですが、やはり地方都市と感じます。

都市型を実施するのか、環境立地というところで考えていくのか。それぞれ経験値もあると思いますが、もし「はっち」で実施していることを千葉市でもできるのであれば、新しい刺激になると思います。

林さんの場合は都市型の経験と、千葉市の新基本計画審議委員もされているなら非常に分かりやすいのではないかと思います。

あと藤野さんに関しましては基本的にドイツの自治体の文化芸術振興に関しての有名な研究者ですが、自治体単位ではなく、いわゆる道州制で、ドイツの自律的な文化芸術振興を熟知されている方だと思うので、そのようなモデルを千葉で考えるようなことがあれば適任かと思います。おそらく忙しいかなとは思いますが。

【神野委員長】

それぞれ強みがあるということと、千葉市が関心を持っている、話を聞きたいというところから選ばれると良いと思います。社会包摂に関して言いますと、中村さん長津さん、それぞれ得意とすることが違うということなので、例えばこのソーシャルアトラポに話を聞きたいという場合であれば、このお2人に話を聞くこともできるかもしれません。②、③のお二人は、鈴木さんは障害者だけではないという話もありましたが、やはり障害者との関わりに重点を置いているように思えます。

僕は、今回の振興会議は重要だと思っていて、今まで千葉市はこの会議で補助金などの内容をチェックして、年次報告書などで全体の事業を見たりしていましたが、実際のところ、メディア芸術関係と障害者関係のアートは、ほとんど関わっていないと感じています。

これは事業の成り立ちなどで理由はあるのかもしれませんが、今回の振興会議は重要な役割を担い始めている気がしていて、芸術祭をやることによって千葉市のブランディング化など、今までバラバラに取り組んでいたものを統合して、機能するようになっていくプロセスになっていると思います。ソーシャルアトラポは色々な対象に対しての専門家がいるので、お二方に話を聞くのもいいと思います。

まちづくり、観光に関しては椎原委員が整理いただいたように、八戸市と千葉市は規模、地域の特性、東京との距離が違うけれども、町中で色々活動をしているところに参考になるということがあります。

藤野さんはかなりドイツをモデルとした理論をお持ちですので、理念的なところを学ぶということに関しては重要な知見をお持ちになっていると思います。

林さんは、六本木での都市型の経験、千葉市の新基本計画審議委員も務められており、都市型のアドバイスをいただけるかもしれないとのこと。

【椎原委員】

林さんは新基本計画審議委員をどのくらいやられていますか。

【事務局】

令和元年ぐらいに意識調査の計画関連でまず関わったのが最初と聞いております。

【椎原委員】

新基本計画審議会というのは文化施策だけではなくて、色々な千葉市全体の枠組みでやられているのですか。

【事務局】

新基本計画審議会というのが、政策企画課というところの審議会になっており、文化振興課の方で、推薦などは行っておらず、所管で委員の選定をしております。

【高梨委員】

私も委員です。私が知りたかったのは新基本計画審議会のなかで、この3年間の間にどんなことをアドバイスされていたり、斬新な提案などがあったかなど知りたいなと思います。

【事務局】

新基本計画審議会では、文化スポーツの部門範囲でご意見をいただいていると聞いています。

【椎原委員】

林さんが事務局長を務める、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界2012」はNPO法人別府プロジェクトが実施していたもので、これと、六本木アートナイトも東京都の森さんがいらっしゃるところですね。

鳥取藝住祭も、基本的に創造都市論というものをベースに色々な所で実施するというので、そこで事務局を経験してきた方なのだと思います。

今、インビジブルがどのような活動をしているのかは、存じ上げてないので何とも言えません。千葉市が横浜や金沢などの都市と同様に、ある意味創造都市論を出して、何か意見をもって新しい計画をしていくということには、良いヒントを与えてくれる可能性はあると思います。

【神野委員長】

事務局の方から何か意見はありますか。

【事務局】

それぞれ3名ずつ記載させていただいていますが、今日のこの話を踏まえて、委員の皆様から別の方の推薦などいただけましたら、またそこで、その方も含め事務局の方で優先順位を付けさせていただいて、皆さんにご意見を伺えればと思いました。

それぞれの分野の3名が候補であるには変わりないけれども、また新たな候補の方も含めて皆さんに優先順位を提示して皆さんにご意見をいただければと思います。

【神野委員長】

では改めてメール等でご意見いただくということですね。それと私の方からお願いで、瀬崎さん、関さん、椎原さんは芸術に係る実演者や、研究者ですので、一番身近な有識者としてヒアリングはしていただきたいなと思います。謝金が払えるのかはわかりませんが、ご協力いただけたらと思います。

【谷 委員】

委員長がおっしゃったことと同じかもしれませんが、市の基本計画が予め上位計画になっていて、文化芸術振興分野について、上位計画に従って仕事をするという立場は、必ずしも正しくないのではと思います。

両方がパラレルに進行していく中で、どう整合性をとるかということになると思うので、市の計画に携わっている委員の方が仮にいらっしゃったとしたら、文化芸術に関する視点を市の基本計画の方に何らかの形で反映していただくというスタンスで仕事をしていただく方が、上から下へという縦割り行政とは異なる、フィードバックができるのではないかと思います。そのようなことを市の仕事目線でやっていただけると、おのずと解決するのではないかと思います。

【神野委員長】

有識者に聞くということは、自分たちではわからないことや、知見が足りないということをお願いしていると思いますが、ここは専門的な知見を提供できる場でもありますので、それを活かして、それでも足りないことがあれば、このような人という順序だと僕は思います。

そこが今、谷委員がおっしゃるように縦割りの、自分たちはこの範囲で完結というように見えなくもないので、もったいないと思います。委員の皆さんも時間をかけて千葉市に貢献していただいているので、その意見がまずは反映されてほしいと思います。

ではこれに関しては事務局の方で取りまとめをする中で再度検討していただけたらなと思います。

繰り返しの話になりますが、何を知りたいのかというところかと思います。あとは振興会議の有識者の皆さんにもヒアリングをしていただくと、非常に分厚いものになっていくのではないかと思います。

続きましては、「第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について」令和3年の実施状況と令和4年の実施予定について事務局の方から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

事業の昨年度実施状況と評価、そして今年度の予定ということで、資料の概要をご説明頂きました。これについては非常に数が多いので、気になる所など抜粋する形でご質問等あればお願いいたします。

【椎原委員】

確認ですが、千葉市美術館の総事業費が422,000円と192,000円。これは正しいですか。

3-2の文化芸術活動の場の充実の4、美術館の展示を充実させるために、422,000円。これ、単位は千円ということですが、どのようなものを買って充実というのか。

おそらく単位を間違えていると思うのですが、いくら予算がないといっても、492,000円で何が買えるのか疑問に思います。A評価のものですけれども、これは正しいのでしょうか。

【神野委員長】

この3-2の内容ですと作品の収集ですよ。

【椎原委員】

それとも、外部の人の謝金なのでしょうか。

【事務局】

これは美術品の収集審査会を開催する経費としているので、報酬や会議開催にあたっての消耗品などの費用が記載されています。

【神野委員長】

ここに評価委員の人件費や委員会開催の費用を書くことは僕の感覚からしたら非常識だと思います。普通に考えたら、その領域にかけた収集予算や展覧会を行ったときの経費などが計上される形が筋なのではないかと思います。

【椎原委員】

これは、指定管理だからこのような形になっているということですか。

【事務局】

美術品の収集審査会は文化振興課の予算で開催しておりまして、美術品収集の原資となるのが文化基金となりまして、その資金で美術品を買っております。

歴代が収集審査会の経費を書いておりましたので、今後このような部分がある場合は事務的な経費でなくて市に直接的に効果をもたらした経費を書くようにいたします。

【椎原委員】

そこですごく予算が少なくなっているなど可視化できるのではないかと思います。

【神野委員長】

場の充実ですので、基本的には展示を通してということになると思います。いい作品を収集できたことでA評価のようになると、そもそもいい作品が収集できたかどうかは誰が決めるのかというところがあります。評価委員が審査しているので堂々巡りになってしまうところもあります。

【谷 委員】

総事業費と書かれているのですが、そのイベント全体がどの位の規模だったのかと、実施主体で市は主催であったり協賛であったりいろんな関わり方がある中で、市の実際に負担している費用が、一見して、分かりにくいところがあると思います。

ヒューストンのバレエなど、一億くらいの事業費になっています。市の役割は後援となっていますが、これについて市がいくら財政負担をしているかなど教えていただければと思います。

【神野委員長】

一つ一つの事業の中身をチェックしていくことに関しては、全部を細かく見ることは実際にはできないので、基本的には事務局のほうで確認されていると思いますが、これとは別に我々が抽出した事業に関して内容の審査をしていますよね。年次報告書と選定した事業評価が補完する関係にあると僕は理解していて、年次報告書に関しては、全体の中でこのような事業があるということと、実施状況を把握すると同時に、先ほど椎原委員がおっしゃったように、この補足の内容として不備があるということと、この評価の具体的な中身が知りたいなど、そのようなところが中心だと思います。

年次報告書の内容を全て報告するとかかなりの時間を要するので、気になるところにご質問やご意見いただくことが中心かと思います。

【椎原委員】

ヒューストンのバレエの話がありましたが、おかしな話だと思いますよね。文化会館大ホールで、4公演で8900人。これは文化会館大ホールの定員数ですよ。

学校公演とバレエワークショップは実施済ということですが、総事業費はバレエ4公演と、プラス学校公演とワークショップのものです。

4年度の目標がバレエ公演観客数6100名は千葉市民全部を招待したわけじゃないですよ。

国際交流課は、公演を実施するというので、公演費を出したのでしょうか。一億円くらい支出していることになりますよね。

【事務局】

公演の費用については事業者が負担することになっていて、後援となりますと名義後援となりますので、金銭的な負担はありません。

表記上の中で、負担金、補助金がありますが、その事業によって額が全然違いますので、一概に事業費の中でいくらかという表記は出ておりません。

千葉市の主催であれば直接千葉市が費用を払っているということになります。指定管理料については一括で払っている中で、この事業にいくら払っているという形になりますので、実質的には市が払っている形になるかと思います。わかりにくくて申し訳ありませんが一部額がはっきりわからない形の事業費の表記になっております。

【椎原委員】

公演とワークショップの費用が、ここに記載されて然るべきなのではないかと思います。

【事務局】

千葉市の主催であれば、そのような形になりますが、今回は後援になりますので。

【神野委員長】

以前議論したことがあるかもしれませんが、全体的に見て、実際の規模が把握できるような内容となっていて、市の負担する金額に見合うかどうかどうも表に含まれていますが、それがメインの表でもないという、微妙な表になっていますね。

【事務局】

文化振興計画の基本政策ごとに振り分けておりまして、それに対する事業は市ではこのような事業があり、このような実態で実施したという把握していただくため表でございます。

もちろん、金額という面もありますが、メインは実態把握です。

【神野委員長】

指定管理の場合には、指定管理団体が自主企画として行うものに関しては団体の責任でやって、一方で市から指定管理料という形でお金が入っているという部分もあります。全額市のお金を使って実施しているというわけではないので、そのあたりは明瞭には言いづらいところがあります。

事業の実態など、指定管理運営に関してのチェックというのは、また別の形でチェックされていて、おかしな支出はないですよということとは別途評価されているということですよ。

千葉市の新しい計画が策定されるなど、色々と変化もあると思いますが、それに合わせてこの事業の中身も組み換えが行われていくという認識でよろしいでしょうか。

【事務局】

そのとおりでございます。

【神野委員長】

例えば3-2にベイサイドジャズがありますけれども、ベイサイドジャズは割と大きな事業として実施されていましたが、今後も千葉市はジャズを出していくのでしょうか。実は結構重要な検討の対象になってくる気がしないでもないと思います。

このあとの芸術祭の話とも繋がってくるかもしれませんが、一度始めると、なかなかそれを組み替えたり別のもに変わったりというのは、日本の社会としてしづらいと思うので、そのようなこともどこかのタイミングで必要なのではないかと思います。ベイサイドジャズが良い悪いということではないのですが。

また気になる場所がありましたら、事務局のほうに寄せていただければと思います。

あと、コロナの状況のなかで、だんだんと事業が実施できる方向にシフトしてきたということがありますので、今後はその事業の内容に関して、市の施策の中での必要性をご検討いただければと思います。

公開はここまで